

令和6年度

## 「市長が訪問します

市政に対するご意見をお聞かせください」

### 結果報告書

1. 開催日時 令和6年10月17日（木）  
午前10時～11時30分
2. 開催場所 ウッド・フォーラム飛騨 会議室
3. 参加者 一般社団法人 ひだ清見観光協会  
理事役員、スタッフ 9名



## 【テーマ】

「ウッド・フォーラム飛驒の魅力を感じてもらい、今後の施設の活かし方を提案したい」をテーマに、意見交換を行った。

### ■ウッド・フォーラム飛驒

- ・昭和 62 年に農林水産省のモデル木造施設建設事業により建設された。
- ・国産材を使用した大型木造施設で周囲の自然と一体化した恵まれた施設環境、広い駐車場や広場とともに市街地から 15 分程度の好立地条件など利便性も高い公共施設であり、様々な利活用の可能性が期待できるコンベンション施設。
- ・建設から 37 年余が経ち老朽化が進み、施設利用の在り方も変化している。

### ■意見交換

- ・昨今の利用者ニーズに合った施設改修等により、新たな利用価値を高めるとともに、市街地で不足気味の会議室等の利用も含めて幅広い市民の利用を喚起していきたい。
- ・清見は高山の西の玄関口と捉えており、境界なく一体的なゾーンとして施設等を管理することの重要性を実感している。見た目の印象は重要で、手をかけることで施設は活きるし、人の流れも変わると感じている。
- ・清見だけではなく市の施設としての意識も重要。今ある資源（自然・木工など）を手入れすると、その土地の良さを子どもたちに伝えることができたり、移住につながったりするのではないか。
- ・会議室を、サブスク用家具の展示や若手作家の発表場所として空間活用するのもいい（実際にサブスク製品を設置している）。
- ・地元の人が来ないため、気軽に来られる施設にしたい。
- ・「ウッド・フォーラム」という名前そのものが、どういう施設か分かりにくく入りにくい原因ではないかという意見があった。建設時の目的、木育や森を守るといった視点から、例えば「森の文化会館」が分かりやすいという提案もある。

### ■市長からの感想等

- ・建物を含め施設をどうしたいか、何を特化するかなど方向性をどうしたいか、今後の取り組みが長続きするためにも、地域の思いを知りたい。地域の活性化・持続可という視点で地域が決めていいと考えている。
- ・施設を使いやすく管理しやすくするために、用途変更することも可能である。
- ・現状のように各団体がそれぞれの取組を進めるのもいいが、担い手の課題もあり、今後はひとつの団体が複数の機能を持つことも考える必要があると感じている。